



故きを温ねて、新しきを知る  
～葵学園のあしあと～

とちか童謡まつりへ合流 2-2

学校法人帯広葵学園

理事長 上野敏郎

帯広の森幼稚園とつじが丘幼稚園の行事として、平成19年から7月1日にこだわり「動物園で童謡を歌おうよ!」の開催に取り組んできたことは前号で紹介しました。この号ではその背景について書いてみます。

帯広葵学園では、子ども達の豊かな感性づくりを念頭に年間200冊の絵本読み聞かせ、12曲の童謡指導を実施しています。そのカリキュラムの一環として童謡を歌う会を位置付けました。また、動物園を会場に選んだのは動物を親子で楽しむことで新たな感性の育ちを期待した訳です。

次に、7月1日にこだわる理由を説明します。昭和59年に日本童謡協会は、7月1日を「童謡の日」と制定しています。大正7年7月1日に刊行された児童のための雑誌「赤い鳥」がその由来になります。この「童謡の日」を広く広めたいとも考えたのでした。

それともう一つ、童謡「赤い鳥小鳥」の作詞をした北原白秋は、帯広地方で古くに歌われていた子守歌「赤い山青い山白い山」を高く評価しています。そればかりではありません。「赤い鳥小鳥」はこの子守歌に大きな影響を受けているというのです。でも、帯広市民のほとんどはこの子守歌を知りません。このままではいけない。この子守歌を歌いつなげたいと思ったのです。

そこで、一幼稚園だけでは「十勝の伝承」にはならないと考え、広く童謡を愛する人々と歌い続けるために実行委員会を発足させました。しかし、それぞれの方々が独自の考えで童謡を愛し楽しんでいたのでした。考え方に違いもあり、実行委員会方式での「とちか童謡まつり」は三回で終了しました。

でも、この童謡まつりには目的があるのです。平成26年の「第4回」からは帯広葵学園が主催することになりました。北海道立帯広三条高校の合唱部の参加をいただいています。三条高校の協力は、「赤い山青い山白い山」の存在を広めることに大きな役割を持ってきています。

正に、歌に隠れた歴史は、町の歴史そのものなのです。

十勝毎日新聞



堂々とした合唱で、大きな声をホールに響かせる園児

(平成26年7月2日 十勝毎日新聞)

とちか童謡まつり  
園児450人が  
元気な歌声  
高校生とコラボも

「第4回とちか童謡まつり」(学校法人帯広葵学園主催)が6月28日、帯広市民文化ホール・大ホールで開かれた。

7月1日の「童謡の日」にちなんで開催。同法人運営のつじが丘幼稚園(奥野淳一園長)、帯広の森幼稚園(秋葉止昭園長)の園児約450人がグループに分かれて合唱した。園合同発表は今年が初めて。

4月に入園して間もない年少組は「パンダつぎこアラ」「どうさん」などの曲を身ぶり手ぶりを交えた愛らしい表情で合唱し、満員の観客の笑顔を誘った。

年中、年長組は手話を用いて歌い、見事なステージを見せた。西園と帯広三条高校合唱部がコラボレーションし、帯広地方で歌い継がれる「赤い山青い山白い山」に挑戦。合唱部の生徒が「崖の上のポヨ」となりのトトロなどジブリの多曲を披露し、観客と一体となって盛り上がった。特別ステージとしてクニ河内さん、野田美佳さんも出演した。(川野遼介)